

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 5/31 第9号 文責 林

学校教育目標 「心豊かに探究心をもち、未来へ歩み続ける生徒を育成する」

第1回トーキン双ヶ丘

裏にも続きます

5月30日（木）に今年度最初の「トーキン双ヶ丘」を実施しました。「トーキン双ヶ丘」は、年間4回、各クラスの代表がスピーチを行います。私も楽しみにしている行事の一つです。第1回目のテーマは、「中学生になって」「2年生になって」「最高学年になって」でした。この取組は、自分の意見や考えをまとめ、全校生徒の前で発表することで表現力やコミュニケーション力を高めることや自己有用感の高揚をねらいにしています。また、聴く側もスピーチする生徒の意見を聴いて自分の考えを振り返る機会になります。発表する生徒も聴く生徒も真剣な表情が印象的で、好感がもてました。代表生徒の発表の一部を紹介します。

1年 男子

「…それは、中学校の中で最も大切なことの一つにもあった『仲間』です。小学校から中学校に進んだので、小学校の友だちだけでなく中学校でも友だちを作つて、皆で笑いあえたらしいなと僕は思っています。」

※友だちの輪を広げる。素敵なことです。

1年 女子

「小学校の頃は、『先生が言ったことをやる』という生活をしていました。しかし、中学生では、『自主的に行動する』という生活に変わりました。勉強についても同じです。……いろいろなかべが出てくると思います。私はそれを乗り越え、自信に変えてやっていきたいです。」

※自分で課題を見つけて、その課題に粘り強くチャレンジすることが大切です。

2年 男子

「僕は、野球の強い学校に行きたい。それを叶えるにも勉強が必要だと思う。2年生になったこの1年間は、勉強に追われる1年になる。そう感じる新学期だ。」

この1年が楽しみである。」

※学習への意欲を感じるスピーチでした。苦手な教科にも果敢にチャレンジしてください。

3年 女子

「……二つ目は自分が自分を変えようとする実行力だ。我慢は、自分をおさえる。しかし、自分に終止符をつけるのではなく、自分が素直に、『ダメだ！』と思った第二者の自分を変えなくてはならない。」

※自分を変えるのは意外とむずかしいです。しかし、自分を変えると視野が広がります。

3年 男子

「3つ目にがんばりたいことは、支えてくれた人への感謝の気持ちを口で伝えることです。なぜなら最近、親へのありがとうという言葉があまり言えていないからです。友だちとかには言えるのですが、年上の人にはあまり言えないで言えるようにしたいです。」

※言葉で感謝の気持ちを伝えることは、伝えられる側にしてもうれしいことです。ぜひ実行してください。

3年 男子

「3年では2年の時より勉強をがんばらないといけない。ちょっと面倒くさいけれど、自分の将来を決めていく。大切なことなので、さぼらずに、分からぬところは残さずに、地道にがんばっていきたい。」

※中学を卒業する時、人生の岐路に立ちます。将来を考えることは不安なこともあります、楽しみでもあります。同時に今を生きることの大切さも考えてください。

3年 男子

「習慣とは怖いもので、嫌なことでも毎日しているとだんだんとその思いはうすくなっていく。むしろ好きになる人もいるかもしれない。それを利用すれば、自分のマイナス面がプラスになり、プラスなものは、さらに極めることができる」

※嫌なことや苦手なことにチャレンジすることで新しい発見をすることがあります。「食わず嫌い」はもったいないです。